

経営方針

社会に出る力を身に付けた自立した人間としての資質を「認め、支え、高め合う教育」と「師弟同行」によって達成していく。

令和元年度

帯広第七中学校の教育

情報発信号 本校生徒の体力・運動能力・運動習慣を診る！

今年度1学期に実施した令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果がスポーツ庁より届きましたので、概略についてお知らせいたします。

1 本校2年生の体力・運動能力の状況（◎…全国平均値を上回っている ○…全国平均値と変わらない △…全国平均値を下回っている）

種目 性別	握力 (筋力)	上体起こし (筋力)	長座体前屈 (柔軟性)	反復横とび (敏捷性)	20mシャトルラン (全身持久力)	50m走 (走力)	立ち幅とび (跳力)	ハンドボール投げ (投力)	体力合計点
男子	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
女子	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎

本校の生徒は、昨年度に引き続き、男子も女子も体力・運動能力が優れている傾向にありました。

男子はすべての種目で全国平均値を上回る結果となり、総合評価においても全国平均より高い結果となりました。女子は、全国平均値を超えた種目が4種目、若干下回った種目が4種目でしたが、総合評価において全国平均値を上回る結果となりました。なぜ、本校の生徒は総じて体力や運動能力が高いのか、生徒質問紙からある程度分析ができていますので紹介します。

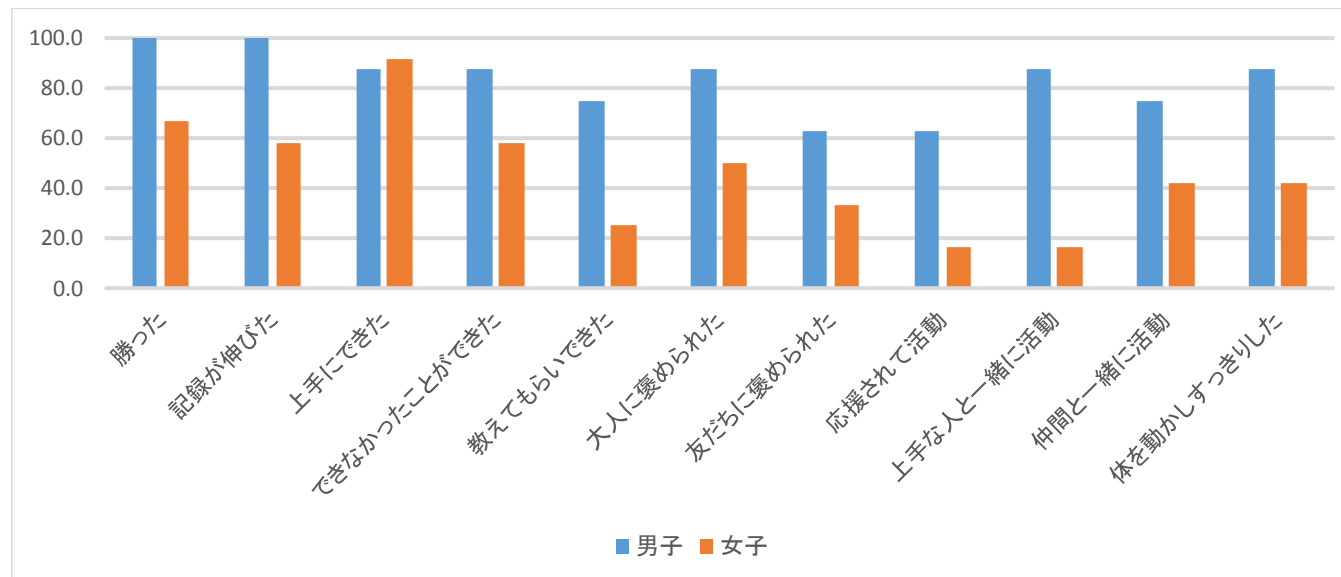
①男子も女子も全員が体力向上の目標を立てている。 ②男子も女子も全員が運動は大切だと思っている。 ③男子も女子も全員が保健体育の授業が楽しいと感じている。

④保健体育の授業で常に目標が示されている。 ⑤体育の授業で助け合う活動が行われている。 ⑥最後までやり遂げてうれしかった経験を全員がもっている。

生徒自身が目標を持って主体的に授業に取り組み楽しむこと、仲間と助け合うこと、教師は目標を示し意図的・計画的に授業を構想することが体力や運動能力の向上につながっていると思います。今後も部活動とも連携しながら、このような取組を継続していきたいと考えております。

2 生徒質問紙から診る2年生の意識の違い

「運動やスポーツを行って楽しいと感じたのはどのようなときですか？」



男子と女子で意識が違うものだと改めて思いました。

男子は、勝ったり、記録が伸びたりしたら全員が楽しいと感じ、上手にできたり、できなかったことができるようになったり、教えてもらったり、応援されたり、上手な人と一緒に活動したり、褒められたりすると楽しいと感じる傾向にあるようです。

一方女子は、上手にできたときに楽しいと感じているようです。また、男子と違って、教えてもらったり、褒められたり、応援されたり、上手な人と一緒に活動することをあまり好まないようです。

できなかったことができるようになったきっかけを尋ねると、女子は主に友だちに教えてもらったり、先生や友だちのまねをしているようです。一方男子は、授業中に自分で工夫したり、先生にコツやポイントを教えてもらっているようです。

こうした結果を見ると、新たな授業改善のアイデアがどんどん生まれてきます。今後はデータを細かく分析し、七中校区の子どもたちの更なる体力の向上や運動能力の向上に努めていきたいと考えます。